

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

第一学年

漢字の組み合わせや意味を踏まえ、熟語の構成を理解している。  
〔小学校第五・六学年 伝国(1)イ(エ)〕

(3) 「若葉」と同じ熟語の成り立ちのものを、次の1〜5の中から

二つ選び、その番号を書きなさい。

① 最古

2 登山

3 忠誠

4 公私

⑤ 短針

〈誤答の傾向〉  
「1、3」や「3、5」など、「3」を選んでいる誤答が多くみられました。

〈誤答の傾向〉  
「1、3」や「3、5」など、「3」を選んでいる誤答が多くみられました。

正答率 40.3%  
無解答率 1.0%

ポイント



言葉の単位(文法学習)は、生徒たちにとって苦手意識の強い内容です。文法学習では、「文を単語(品詞)に分解させ、文の構成要素として、一つ一つの言葉の役割を認識させることが大切です。あわせて、文節どうしの関係が正しく結び付くことによって文が成立するということを意識させることも大切です。

熟語の構成は、昨年度の小学校第5学年の本調査でも、課題の見られた内容として挙げられています。熟語の構成を見分けるには、それぞれの漢字の意味を考えるとともに、その関係を考える必要があります。文法の学習に通じます。「修飾・被修飾」や「主語・述語」といった「言葉どうしの関係(文節の関係)」は、教科書において、小学校低学年から中学校に至るまで、繰り返し取り上げられています。中学校では、新たな学習内容として取り扱うのではなく、小学校からの学習内容を踏まえた上で、指導しましょう。指導の際には、「言葉どうしの関係」の学習と、「熟語」の学習、「書くこと」の学習、それぞれの学習を関連させる働きかけが有効です。

チャレンジ確認シート H27A⑨4

第二学年

言葉の単位(単語)について理解している。  
〔第一学年 伝国(1)イ(エ)〕

① 次の文は、いくつの単語からできていますか。単語の数を書きなさい。

正答率 39.8%  
無解答率 0.7%

街路樹から、かましいセミの鳴き声がひびく。

〈誤答の傾向〉  
「5」と答えた誤答が多く見られました。

「5」と答えた誤答が多く見られました。これは、問題が「単語の数」を問うているのに、「文節の数」を数えているという誤りです。問題が「単語の数」を問うているのに、「文節の数」を数えているという誤りです。

読むこと(文学的な文章)

第一学年

文章中の描写に着目し、内容理解に役立てることができる。  
〔第一学年 読むことウ〕

(2) 線部「リアルだ」について、「霧」についても同じように「リアル」に感じることがわかる表現があります。その表現を、線部のあとの本文中から一文で抜き出して書きなさい。

〈誤答の傾向〉  
「霧の中の霧につつまこまれるような錯覚におそわれた。」「おれは両手で霧をかきわけるようにして、前に進んだ。」「霧はその山から流れだしているようだ。」「霧は線部の前から抜き出している。」「一文で抜き出せていない。」「遠景の山を見る、見えかくれする稜線には雪がつもっている。」「松の葉っぱだって、墨だけでかかっているのに、ちゃんと葉っぱの色が見える。」「霧」についての描写を取り上げられていない。

〈誤答の傾向〉

「霧の中の霧につつまこまれるような錯覚におそわれた。」「おれは両手で霧をかきわけるようにして、前に進んだ。」「霧はその山から流れだしているようだ。」「霧は線部の前から抜き出している。」「一文で抜き出せていない。」「遠景の山を見る、見えかくれする稜線には雪がつもっている。」「松の葉っぱだって、墨だけでかかっているのに、ちゃんと葉っぱの色が見える。」「霧」についての描写を取り上げられていない。

正答率 44.6%  
無解答率 6.3%

チャレンジ確認シート  
H24A③1 H24B③2,3  
H25A②1 H25B②1 H26A③1  
H27A③2 H28B③1  
H29A⑥ H29B①2 H30A③2 H30B③1

ポイント

文学的な文章には、読者に特に伝えたい思いや心情は、直接的に表されるのではなく、別の言葉・事柄によって間接的に表現されるという特徴があります。そのほうが、直接的に表現するよりも、熱い思いが読者の心に伝わるからです。

この出題文では「屏風絵が素晴らしい」という思いが、「リアル」という言葉を軸に、絵の描写を通して表現されています。この「絵の描写」が作者(登場人物)の熱い思いを読者に仲介する言葉ということになります。読解の指導の際は、感じたこと、想像したことを基に勝手に判断するのではなく、叙述を根拠に判断するという大前提を指導します。文学的な文章の指導の際は、この大前提を踏まえた上で、思いを仲介する言葉・事柄(=叙述・根拠)に注目させることを心がけましょう。

あわせて、問いの文(「線部のおと」「一文で」等)をしっかりと把握して解答することは繰り返しの経験で身に付きます。意識させる働きかけを指導の中で行いましょう。



3

第二学年

(3) ヒガンバナはなぜ、——線部「他の植物と横並びの競争をせずに、繁栄できる」のですか。「しくみ」という言葉を使い、「から」に続く形で、二十五字以上、三十五字以内でまとめなさい。(句読点も一字と数える。)

文章の展開に即して内容を捉えることができる。

〔第一学年 読むこと イ〕

正答率 39.8%  
無解答率 8.7%

チャレンジ確認シート  
H27A⑥1 H27B②1,2  
H28A⑥1 H28B①1②2  
H29A④1  
H30A⑤2 H30B①1  
R1①2 R1②1,3,4

〔正答例〕

「冬の寒さの中で緑の葉っぱが育つしくみを身につけている(から)。」

〔誤答の傾向〕

- ・冬の太陽光を毎日たくさん浴びて、他の植物に邪魔をされずに光合成をする(から)。
- ・この植物の葉っぱは、冬に育つので、生育場所を他の植物と奪い合う必要がない(から)。
- ・冬の太陽光が弱くても、多くの葉っぱによって光合成ができるしくみがある(から)。

「しくみ」という言葉を使えていない。「しくみ」を説明した記述内容に不足がある。



ポイント

出題文

「もちろん、冬の寒さの中で緑の葉っぱが育つしくみは必要です。でも、そのしくみを身につけさえすれば、その個性を生かして、他の植物と横並びの競争をせずに、繁栄できるのです。」

(田中 修『植物のあっぱれな生き方』より引用)

「なぜ繁栄できるのか」を考えると、答えは「そのしくみを身につけているから」となります。そして「そのしくみとは何か」を考えると、「冬の寒さの中で緑の葉っぱが育つしくみ」となります。

説明的な文章は、理解されることを目指した文章です。よって、**筆者が主張しようとする事柄は、必ず文章中に表現されています。**文脈をたどり、自分の解釈を入れずに、**文章中にある言葉だけを頼りにして文章を理解する**という意識を生徒にもたせることが重要です。授業では、曖昧な答えをよしとせず、「なぜそう思うのか」や「文章中のどの部分からそう考えるのか」等を明らかにさせることを心がけましょう。

また、説明的な文章は、**伝えたい内容を様々な表現で「言い換え」**ながら、説明を行っていきます。この「言い換え」している箇所を整理することが、文章の構造や筆者の主張を読み取る上で大変重要です。

書くこと

5

第一学年

文の接続に注意し、伝えたい事柄が明確になるように情報を適切に取り上げることができると、〔第一学年 書くこと イ〕

(1) 「原稿の下書き」の「ア」に当てはまる内容を、——線部「千人十色」では……という意見も出ました。」の書き方を参考に、二十字以上、三十五字以内で書きなさい。(句読点も一字と数える。)

正答率 20.3%  
無解答率 15.1%

チャレンジ確認シート  
H26A④1 H28A②2  
H29B③1 H30A②1

〔正答例〕

「もっと学級の思いがわかりやすいタイトルがよいという意見が出ましたが」

〔誤答の傾向〕

- ・「比喩はよいが……意見もあり」
- ・「比喩はよいが……意見や」
- ・「このあと続く文に、「比喩はよい」の記述があるにもかかわらず、「比喩はよいが」を入れている。文末が逆接になっていない。

ポイント

文章を書く際には、目的に応じて**伝えたい事柄を明確にし、それに必要な情報を文章の展開に即して適切に取り上げる**必要があります。

指導の際には、**モデルとなる文章を示し、情報の取り上げ方や書き方の工夫点を確認させた上で、自分の表現に生かして書かせる学習活動等**が考えられます。特に情報を適切に取り上げる課題に対しては、目的に応じた情報を収集する活動（発散）、情報の関係付けの活動、取り上げる情報を絞っていく活動（収束）、情報の並び替えの活動等を行う際、情報を視覚化できることから、カードや付箋を使うことが有効です。

国語科の授業づくりについて

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

主体的

- ・自らの考えを表現する（ノートに書く、人に説明する等）
- ・自らの学びや姿勢を自覚する（学習の見直し・振り返り）
- ・実社会や実生活と関わる課題に取り組む

対話的

- ・生徒同士、教職員、地域の人との協働的活動、また資料や自己との対話を通して、考えを広げ深める

深い学び

「言葉による見方・考え方」を働かせて

- 言葉に着目させ、自覚的にさせる
- 「言葉の意味は？」「表現の仕方は？」
- 言葉を捉えたり問い直したりさせる
- 比較・分類・順序・原因・結果・意見
- 根拠・具体・抽象・分解・統合…等

「走れメロス」で、王ディオニスの顔色が最初は「蒼白」だったけれど、最後は「赤らめて」に変化している。「顔色」を比較して、顔色の意味と、変化した意味を、他の作品の色の扱い方を参考に考えてみよう。

言語活動

資質・能力の育成

- ・知識を相互に関連付けてより深く理解する
- ・情報を精査して考えを形成する
- ・問題を見いだして解決策を考える
- ・思いや考えを基に創造する

一体として実現される学びの過程

